

# 事業セグメント

## 国際事業

執行役常務  
松村 幹雄



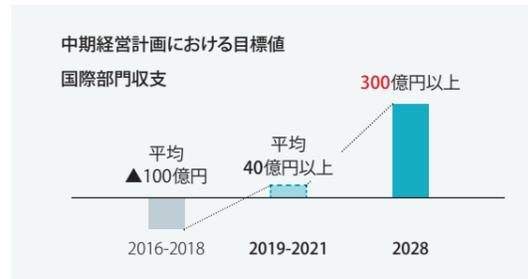
インドネシア ラジャマンダラ水力発電所

ラオス ナムニアップ1水力発電所

### 国際事業の概要

日本の電力会社として初めて海外の発電事業に進出したフィリピン・サンロケ水力プロジェクト(1998年)をはじめ、国内外で培った技術力やノウハウを活用し、世界12カ国で合計20件の発電・送配電プロジェクトに参画しています。

バンコク、ニューヨークやアムステルダムなど、世界5カ所の海外拠点も活用し、グローバルに事業を展開することで、グループ収益の重要な柱となることをめざしています。



- 取組み (中期経営計画 3か年)**
- 長期売電契約つき発電事業等の安定収益源の構築、プロジェクト初期段階での参画等による収益性向上への取組み
  - 現在建設中の複数プロジェクトを確実に推進し、足下3か年を含む大幅な収益拡大を実現
  - デジタル技術等の新技術の獲得と、その活用による国内外資産価値向上への取組み
  - SDGs・ESGと脱炭素化の世界的広がりをリードすべく、水力・風力等の再エネプロジェクトの組成・参画
  - 「グローバル人材」のさらなる育成、事業参画地域での組織・体制の強化とダイバーシティの推進
  - グループ大での連携強化や他社とのアライアンスによるプロジェクト付加価値向上、新たな事業機会創出

### 2019年度の実績

#### 国際事業の拡大

2019年度には、インドネシアのラジャマンダラ水力発電所、ラオスのナムニアップ1水力発電所が建設を終え商業運転を開始しました。ラジャマンダラ水力発電所は、日本の電力会社として初めて、地点の発掘から事業性評価、資金調達等のすべてのプロセスを当社が自ら手がけた完全な自主開発プロジェクトです。また、当社が主体となって開発を進めてきたナムニアップ1水力発電所は、主発電所の工事規模と発電規模が黒部川第四発電所に匹敵することから、「第二のくろよん」と呼ばれるようになりました。建設においては、土木、電気、金物工事の主契約を日本企業と締結する「オールジャパン」体制で、品質、工程管理に万全を期して工事を進めました。

また、配電・小売事業へも新たに参入しました。フィリピンの新産業都市「ニュークラークシティ」では、同地区内の都市開発に合わせて、スマートグリッド技術を活用した配電設備の設計、建設、保守および電力小売事業をおこないます。英国のエレクトリシティ・ノース・ウエスト社(ENW社)については、日本の電力会社が、実際に事業を運営している海外の配電事業会社へ参画する初めての取組みとなります。

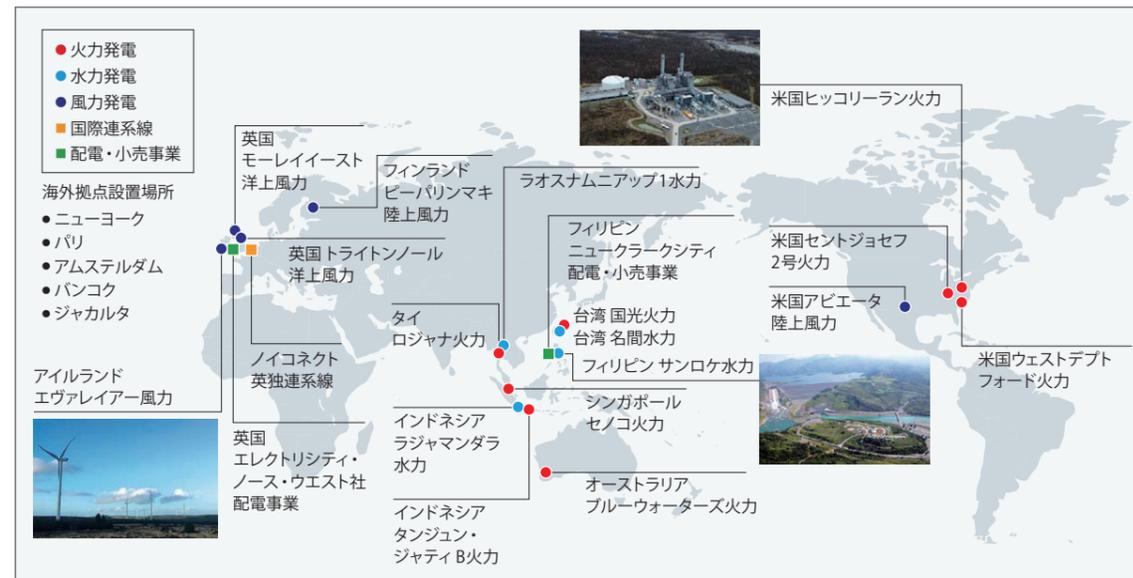
2020年度には、当社が北米で初めて開発段階から参加し、建設を進めてきたガス火力のヒッコリーラン発電所が商業運転を開始しました。さらに、再生可能エネルギー発電事業では、フィンランドのピーパリンマキ陸上風力発電事業および、米国のアビエータ陸上風力発電事業へ参入。当社が両国で再エネのプロジェクトに参画するのは今回が初めてです。それぞれの国で最大級の陸上風力発電所となる両プロジェクトが新たに加わることで、当社海外発電事業の持分容量は約3分の1が再生可能エネルギー電源となります。

出資割合発電容量(2020年8月末時点)

**281.6万kW**

海外電力プロジェクト(2020年8月末時点)

**12カ国20プロジェクト**



### 事業環境認識

- 海外の電力市場で今後も激しい競争が予想される一方、ESG、SDGsの観点の広がりに伴う電源の低炭素化やデジタル化、自由化などにより、当社がこれまで培ってきた技術力、ノウハウを活用できる、新たな事業領域の拡大も期待できます。
- また、事業規模や事業領域を拡大するには、海外での実践経験を通じた人材の育成や、他社との協業により相互の強みを活かしたアライアンスを推進することが課題となります。

**中期経営計画における戦略**

**めざす姿**  
世界のエネルギービジネスの変化を迅速かつ的確にとらえ、事業参画地域に根を張りながら、高い付加価値を創出し、グローバルに事業展開します。

#### 中期経営計画の達成に向けて

安定収益が見込まれる規制事業への参画、事業の早期参画による高い収益性確保、建設中プロジェクトの確実な推進、投資済み事業からの収益最大化により、中期経営計画の利益目標達成に、全力で取り組んでいきます。



ENW社設備・エンジニア



アビエータ陸上風力発電所